

第1回萩小学校複式編制回避検討委員会・議事概要

開催日	令和4年10月27日（木曜）	午後7時～午後8時
場所	萩地区市民館	1階集会室
参加者	検討委員会	10名
	事務局	4名

1 議題

(1) 平成26年に実施したアンケート調査の集計結果について

[事務局] 資料1（平成26年に実施したアンケート調査の集計結果）に基づき説明

(H26 アンケート概要)

目的：多くの学校で校舎の老朽化を迎え、一斉に更新時期を迎えることから、当時、教育委員会では、既存の建物の安全性を確保しながら、機能性の向上を図るため、各学校のリフォームを検討していた。この流れの中で、萩小学校のリフォームを検討するにあたり、平成26年度の時点においても、萩小学校が将来的に複式編制となる可能性があったため、校舎リフォームをひとつの機会ととらえ、小学校及び保育園の保護者を対象に、子どもたちの学習環境についてアンケートしたものの。

対象：萩小学校（100名/68世帯）、萩保育園（34名/29世帯）の各保護者

時期：平成26年7月から8月

備考：アンケートに先立ち説明会を3日間開催。この資料は、平成26年10月22日付けで、保育園や学校を通じて対象者に結果報告として配布したものの。

(H26 結果概要)

- ・小学校1学年あたりのクラス数（1～4クラス）については、2クラスを望む方が最も多かったが、1クラスを望む方も多かった。ただし、3クラスを含めると、複数のクラスを望む方が多い（4クラスの回答はなし）。
- ・小学校1クラスあたりの児童数（①10人以下、②11～20人、③21～30人、④31人以上）については、③が最も多く、次に多い②を合わせてほとんどの方（95%）が

②又は③を望まれていた（④の回答はなし）。

- ・H26 当時の萩小学校の規模（児童 100 名、各学年 1 クラス）についての設問では、「先生が目が届きやすく、きめ細やかな指導がしやすい」という肯定的な意見が多くある一方で、「友人関係がいつも同じで、友人間に序列ができてしまう」という否定的な意見も複数あった。
- ・これからの萩小学校について望ましいカタチを訪ねた設問については、「複式学級になっても萩小学校で学ばせたい」という方が 30%、「複式学級になったときに考えれば良い」という方が 38%、「通学手段など条件を整えば、現時点で統合を考えても良い」という方が 25% だった。結果として 3 つの選択肢の中で、大きな差が出なかったが、H26 時点では校舎のリフォームを前提にアンケートを行ったこともあり、実際に複式学級になったときに考えれば良いという意見が多かったのだと思われる。

（以下質疑応答）

【委員長】 自身が通っていた 50 年前くらいの萩小学校は 1 学年 20 人くらいで、男女比率も同じくらいであった。

平成 26 年度アンケートの最後の設問で、「複式学級になっても萩小学校で学ばせたい」という回答もあったが、現在の豊川市は、複式学級は行わないという方針が決まり、そこが当時とは異なるところ。

自分も含めて、初めてアンケート結果をご覧になる方が多いと思うが、何か質疑等あれば。

【B 委員】 会議資料については、会議当日ではなく 1 週間前くらいに配布いただけると良い。

平成 26 年度当時、町内会長として、強く反対したと本人から聞いている。その時は結果的に（統廃合が）流れたが、これから何か決めるときには、その都度、町内会の回覧板で周知するなどをお願いしたい。皆が知らないところで、どんどん決まっていくということは避けたい。萩地区のみんなで共有して、変な軋轢が生まれることなく、決めていくことが良いと思う。

【G 委員】 確認だが、複式編制を回避するという事は決定事項か。議会か何かで承認されたものか。

【事務局】 学校規模に関する基本方針を平成 31 年 3 月に定めた。この方針は、市長まで決裁をとり、議会にも報告したうえで定めたものとなる。豊川市では複式編制を回避することとし、それに向けた対策として考えられる 4 つの取組を

記載したものとなる。

回避に向けて取り組む中で、結果的に複式編制になってしまう期間が発生してしまうかもしれないが、基本的にはそれを認めないという方針である。

【G委員】 前回のアンケート時では、複式編制を回避するという方針が定まっていなかった。今後、アンケートを実施する予定だと思うが、複式編制を回避することが決まっているのであれば、次のアンケート項目は、前回（平成26年実施）のときから大きく変わると思う。豊川市は複式編制を行わないということとを前面に出さないとわかりにくいかもしれない。

【F委員】 平成26年時には、当時の教育委員会が萩小学校を無くすという雰囲気の説明に来た。萩地区においても、萩小学校が無くなるという噂が先行し、ショッキングな雰囲気であった。学校運営協議会は通常年3回の開催だが、それもあって6回の開催であった。会議の中では、強い口調のやりとりもあり、議論の進め方もあまり好ましくなかったと思う。

豊川市が複式編制を選択しないのであれば、それを回避する選択は限られている。どこかと統合することになるのではないかと思う。

当時のアンケート対象者を見ると、もともと萩地区で生まれ育った方もいるだろうが、他所の地区から萩地区に来た方もいると思う。他所から来た方々からは、もう少し子どもが多い学校に通わせたいという意見が多かったと聞いている。ただ、年月が経ち、子どもたちが萩地区に慣れ親しむにあたり、萩の良さが浸透し、異なる結果が出るのかもしれないと思っている。

【E委員】 萩小学校が無くなると、純粹に寂しい気持ちがある。それは仕方がないことなのか、他に方法があるのか、そういったことがこれからのアンケート等を通じて、色々見えてくるのかもしれない。

【C委員】 私自身も萩小学校の出身。現在の居住区としては赤坂小学校区となるが、制度を利用して我が子は萩小学校に通っている。家から萩小学校は遠いが、（学校の規模が）小さいなりに子どもは楽しんでいると思う。

家の近所には、赤坂小学校に通っている子どもが6人くらいいる。子どもがバスケットボールをやっているので、その子どもたちとバスケットを通じた交流はあるが、反対にバスケットをやっていなかったら、交流がなかったかもしれない。

【A委員】 今後、アンケートを実施するということが、その回収率やアンケート結果をどのように踏まえるのかというところを考えている。また、複式編制回避のために4つの取組があるとのことだが、4つとも現実的な選択肢としてあり得るのかどうか。

【事務局】 4つの取組については、次の議題で触れるので、その時にお話できればと思うが、それぞれが可能な選択なのかどうかというところを皆さんと勉強しながら話し合っていきたい。

【D委員】 保育園には、その地区在住の家庭以外にも、保護者の勤務先が近いなどの理由で通われている家庭もあるので、小学校の人員構成とは若干異なるのかもしれない。

【H委員】 自分の娘が、まさに複式編制となる対象の年代。つまり当事者だが、この複式編制回避の動きを知らなかったので、びっくりしている（平成26年には生まれていなかった世代）。

平成26年のアンケートに回答した方々に話を伺ったところ、「複式編制になったら考えるというアンケート結果が多かったのだから、複式編制になると思っていた」という方が多かった。

複式編制を回避するという豊川市の方針自体が全く浸透していないので、みんながびっくりしている。平成31年に定められたという基本方針も、何らかの便りがあったかもしれないが、当事者となる若い世代に浸透していない。萩地区の特徴として、祖父母の世帯と同居している家庭が多いので、回覧等があっても、若い世代が見る前に次の世帯に回覧されてしまう可能性がある。そのため、「複式編制を回避」というフレーズを見ても、何のことかうまく伝わらない。通えなくなるのであれば、それは「廃校」ということなので、対象となる世代には早い段階でわかりやすく説明していかなければならないと思う。

市民館では保育園入園前の親子が集まる会（さくらんぼ会）が月に1度あり、昨日も会が開かれた。さくらんぼ会の代表から複式編制回避の話題が出たが、参加者の中には、萩小学校が複式編制になると聞いていたので、萩小学校に子どもを通わせるために市外から戻ってきたという方もいた。そのような状況なので、今後、複式学級は行わないということであれば、それを言い切るかたちで、お知らせしたほうが混乱は少ないと思うし、そうしないとトラブルになると思う。

【副委員長】 令和4年8月10日付けで、萩町内会長の名義で「萩町民の皆様へ／萩小学校複式編制回避検討委員会（仮称）設置のご連絡」として、会議資料とあわせて回覧したが、今、話があったように、若い世代が見る前に次の家庭に回覧されてしまうことがあったかもしれない。9月1日付け市民館だよりも、説明会を開催したことを掲載したが、同じだったかもしれない。今後、若い世代にどのように周知していくかは検討すべき事項である。

(2) 複式編制回避に向けた取組の事例について

〔事務局〕 資料2（複式編制回避に向けた具体的な取組について）に基づき説明
この資料は7月説明会でも配布したが、時間の都合上説明せずに、今後検討を進めていく中で、改めて説明させていただくとしたもの。これに、他自治体における取組事例を加えたものとなる。

(4つの取組について)

①学校統合

- ・隣接する学校を統合（既存校に吸収、もしくは新設）し、学校規模を維持する取組。
- ・学校が地域コミュニティの中核になっていることに配慮するほか、通学区域が広がることによるスクールバス等の検討、学校跡地利用の検討も必要。
- ・新城市作手小学校の事例が資料添付、田原市でも津波対策で小規模校統合を推進。

②通学区域の見直し

- ・隣接する校区の一部を編入し、通学区域を拡大するなどの取組。
- ・通学距離や通学の安全対策に加え、従前の学校と地域との連携などの総合的な調整が必要。
- ・豊橋市において大規模開発に伴う児童数増加を受け、花田小学校や中部小学校で区域見直しを実施（H10前後）、小規模校対策として行った事例はあまり無い模様。
- ・隣接する区域に小規模な学校しかない場合は、あまり効果がないと考えられる。萩小学校の場合は赤坂小学校が候補となるが、赤坂小学校自体も小規模校であるため、この取組を選択することは現実的には難しい。

③学校選択制の導入

- ・通学する子どもや保護者が入学する学校を選べる制度で、5つのタイプがある。
- ・中でも「特認校制」は、従来の通学区域は残したまま、特定の学校に市内どこからでも就学を認めるもの（小規模校対策として取り入れている自治体も多い）。ただし、その学校への入学希望者がいないと成果が上げられないため、特色ある学校づくりが必要。
- ・ただし、一般的な通学団登校ができないため、保護者の送迎が前提となる。また、居住区域での友人関係や地域とのつながりが希薄化しやすい傾向がある。
- ・豊橋市で3校が実施中（資料添付、現在3校で合計17名あり）。新城市でも鳳来地区の小学校で実施。

④関連する取組としての小中一貫教育

- ・1名の校長のもと義務教育9年間を一貫して行う「義務教育学校」と、小中それぞれ別の校長のもと行う「小中一貫型小・中学校」がある（小中一貫型小・中学校では、先生も別となる）。また、それぞれ施設の形態により一体型、隣接型、分離型に分類される。

- ・小中一貫教育は小規模校対策を目的とした制度ではないが、子どもの数が少ない場合、一体的に取り扱うことで、一定数の児童生徒数を確保できるため、関連する取組として掲載している。
- ・小規模校対策として行う場合は、施設を一体型とした小中一貫教育が有効だが、施設を新設する必要があり、実現までの費用や期間、中学校区の調整などの課題も大きい。
- ・瀬戸市で小学校 5 校と中学校 2 校を統合した施設一体型の小中一貫校「にじの丘学園」を新設。

このように複式編制回避の取組としては、「①学校統合」以外にも選択肢が考えられるので、複数の取組を段階的に実施することも念頭に置きながら、萩地区の皆様と協議を進めていきたい。

(3) その他（今後のアンケートについて）

[事務局] 資料 3（アンケート調査実施方法 案）に基づき説明

7 月の説明会において、平成 26 年に実施したアンケートが保護者のみを対象としたものであったこともあり、①地域住民の皆様や、②子ども本人に対してもアンケートをしたらどうかという提案をいただいた。それを案として示したものの。

- ① 地域住民の対象者は 555 世帯（住民基本台帳上）、若しくは町内会加入の 534 世帯（この差は不明だが、ジャルダンリラの入所者かもしれない）。
- ② 現在の子ども数（小 1～高 3）については記載のとおり。前回の説明会で、小学校 5 年生以上から中学生までを対象にしたらどうかという意見もあり、3 パターン用意した。なお、現在通学中の小学校 5 年生、6 年生にアンケートをすることが、学校生活に影響するかもしれないことから、「パターン 3」では、中学生以上の組み合わせを用意した。

本日は、案として示しただけなので、特に何かを決める必要はない。調査の仕方や対象者、調査項目などを、次回以降の検討委員会で相談できればと考えている。

2 その他連絡等

【G委員】 平成31年3月に策定した方針（複式編制は行わない）が分かるような、簡単な資料があると、回覧板などで回せるので良いと思う。

〔事務局〕 7月説明会でお配りした概要版（7ページ）ではどうか。

【G委員】 もっと前面に複式編制を行わないことが伝わる資料のほうが良いと思う。

【B委員】 平成26年当時は、町内会をあまり通さずに色々なことが進んでいったと記憶している。町内会を活用して周知していくことが大切だと思う。
一方で、（コロナ禍により）町内会の寄り合いが無くなり、面と向かって意見交換する場が少ない。先ほど話があったように、8月に町内会長が会議資料と一緒に回覧板で情報提供してくれたが、あまり確認せずに回してしまったかもしれない。

【副委員長】 7月説明会で町内会での情報発信に努めて欲しいとの声があったので、そのような対応をしたが、話を伺っていると、どのように周知するのが良いのかと考えてしまう。資料などを全戸配布できれば良いが、534世帯全部になるとなかなか難しい。重要な書類であるのであれば、そうしなければならないかもしれないが…。

【B委員】 資料が、もう少し直接的な表現のほうが分かりやすい。複式編制を回避しますと言われても何のことか分からない。廃校になりますくらいの表現でないと伝わらない。

〔事務局〕 現段階において、複式編制回避イコール廃校と決まっているわけではない。

【B委員】 他所から聞いた話だと、廃校前提ということだった。そういった前提であるなら、ざっくばらんに地域みんなで考えるということもありえるのかもしれない。

【委員長】 前は保護者メインで進んでしまった。その反省を生かし、今回はこのようにみんなで集まる委員会を設置している。地域で考えていくべきだと思っている。
そこで、回覧板や市民館だよりを活用して周知したが、話を伺っていると、特に若い世代への周知が課題のようだ。

〔事務局〕 次回の委員会は1月か2月頃に開催できればと考えている。委員長と日程等を相談し、通知させていただく。本日の資料が当日配布であったため、また

ご覧いただき不明な点などがあれば、委員長を通じて、又は、教育委員会に直接お問い合わせいただければと思う。

以上